

湖国で輝く 企業を 訪ねて



江戸時代から 受け継がれてきた「高島ちぢみ」



高島地域は江戸時代から「高島ちぢみ」と総称される「綿楊柳」^{めんようりゅう}「綿クレープ」の産地として知られ、最盛期にはもう一つの産地の柱である資材を製織する「重布」^{じゅうふ}・「厚織」^{あつおし}を手掛ける企業と併せ、500軒を超える機屋がありました。

高島ちぢみは、古くは綿糸を手機で織って染め、生活着などに利用したのですが、明治末期には本格的な工業生産が行われるようになり、近年になると主に紳士向け肌着の生地として広く愛用されるようになりました。

高島ちぢみの特徴は、強い撚りかけた緯糸を使って織り上げ、さらし工程によってその緯糸が戻ろうとする力を利用して、生地の表面に独特の「しぼ（凹凸）」が作られることにあります。この「しぼ」があるため肌に密着せず、サラリとした着心地と、吸水性、速乾性、通気性によって、高温多湿の日本の夏を快適に過ごすことができます。

肌着の他、パジャマや寝具カバーなどにも盛んに利用されるようになりましたが、オイルショック後は日本人のライフスタイルの変化



市場拡大を目指し、 新たな付加価値づくりに挑む

株式会社 杉岡織布



代表取締役社長
杉岡 定弘氏



本社／滋賀県高島市新旭町太田1700番地
創業／昭和30年
設立／昭和37年 有限会社杉岡織布 設立
昭和56年 株式会社杉岡織布 組織変更
従業員／7人
事業内容／綿織物製造・卸業／縫製品販売

「高島ちぢみ」綿・綿麻・化合織・クレープ
及び揚柳・浴衣生地・二重ガーゼ 等



株式会社 杉岡織布

や、織物産業の担い手の高齢化、後継者不足などの影響を受け、生産量は減少の一途をたどり、機屋の数も35社まで激減しました。（高島織物工業協同組合調べ）

3代目として家業を継承 新しい製品づくりに取り組む

昭和30年に創業、37年に法人設立された株式会社杉岡織物は、高島地域の機屋としては後発の部類ですが、数多くの同業者が次々と廃業する中で、生き残りを模索しながら技術を守ってきました。

平成26年6月に代表取締役社長に就任した杉岡定弘社長は3代目。大手繊維メーカーで4年間経験を積んだ後、高島に戻って現会長を支えて経営に携わり、「高島織物の技術を継承しながら、新たな付加価値を生み出すことで市場を広げていく」という方針のもと、さまざまな改善に取り組んできました。



代表取締役会長 杉岡 敬司氏

例えば、高島に戻って3、4年後に、杉岡定弘社長（当時専務）と、杉岡敬司会長（当時社長）は「コスト及び製品管理がシビアになり、早く織り上げることができなければ、一部の高級品を除き、少品種多ロットの流れになっていた「高島ちぢみ」の製織には、コスト的にも品質的にもいすれ合わなくなる」と考えて、24台あったレピア型織機をすべて廃棄して、新しいエアージェット方式の織機を導入しました。

現在は、その時導入した3台を含めたエアージェット織機20台が稼働していますが、そのうち4台は国の補助金を活用して導入したものです。このうち2台は、綾織りや多重織りなど、より高度な織り方に



対応できる織機です。また、他の2台は多色使いが可能な織機ですが、同社ではこの織機を使って、付加価値の高い製品の開発にも意欲的に取り組んでいます。例えば、8色の糸を使って同社が初めて織り上げたグラデーションの生地や、さらに、植物染料で染めた糸を用いたやさしい風合いのグラデーション生地は、先だって公開した高島産地合同



展示会「ビワタカシマ春夏素材展（東京・大阪）」での引き合いが多く、生地販売への動きが非常に活発で、多くの需要が見込まれることから、いずれ製品化して、自社生地を使用した最終縫製品（ストール、肌着、部屋着など）として扱いたいという希望を持っておられます。

また、平成23年には自社ブランド「高島（綿）クレープ」を立ち上げ、自社製の高品質な生地を使ったおしゃれなステテコや、従来の白以外に、カラー展開した上で高品質素材を用いたランニングシャツやU首シャツなどの定番商品をネット販売しています。「良い素材の製品はリピート率が高く、ネットレビューで評判になったりします」と話される杉岡社長には、自社ブランドで儲けるといより、高島ちぢみをPRするツールとしてネット販売を活用したいという狙いがあります。

より質の高い製品づくりを目指して 職場の環境整備などにも着手

生産量が減り続ける中、産地の危機的状況を乗り越えるため、高島産地の中心を担い、またサイジング工程など、経糸の整経加工を行う高島織物工業協同組合と、白くて美しい肌着などに供するための精練工程・漂白工程や染色工程（顔料プリント・無地染など）を行う高島晒協業組合、そして織物企業が一丸となって「高島ちぢみ」の地域団体商標登録申請に取り組み、平成24年1月に登録が認められて地域ブランドとしての地位を確立しました（登録番号第5461250号）。

折から、クールビズや省エネへの関心が高まっていた時で、高島ちぢみはさまざまなメディアで紹介されたり、若者向けのおしゃれなステテコなどが話題になりました。

「高島ちぢみ」の知名度を高めるため、高島織物工業協同組合が東京と大阪で開催している素材展「ビワタカシマ」に、杉岡織物も毎年生地及び製品を出展しています。

創業60周年を迎え、これから強化していきたい点として、杉岡社長は会社としての基盤整備をあげています。

平成24年に中小企業庁の「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」に応募した際、傍らで必要を感じ、会社の「経営革新計画」を滋賀県に申請し、認定されました。また、従業員を採用・育成するために、就業規則を整備したり、休憩のためのスペースやトイレを新設するなど、会社としての体制整備にも着実に取り組んできました。

そんな中で、「信用保証協会は私どものような小さな会社にとって、なくてはならない存在です。長年お世話になり感謝しています」と話してくださった杉岡社長。

受け継がれてきた伝統の技術をもとに、新しい発想で付加価値を生み出すことで、「うちにしかできない独自性の高い製品づくりで、高島ちぢみのブランド力をもっと発揮できるようにしたい」という熱い思いが伝わってきました。

Message

高島産地の織物技術を未来に伝えるために

ネット販売で当社の製品を購入していただいた方から、「やはり高島のは質がいい」「懐かしい高島クレープに再び出会えてうれしい」といった声をいただいたことが、大きな励みになりました。

「高島ちぢみ」のブランド名にふさわしい質の高い製品を作るためには、撚糸回数などの管理や原糸ロットをきちんと管理したうえで製織することが求められます。そのためにも、設備や環境の整備、従業員育成など、会社としての体制づくりに取り組み、お取引先に満足していただける質の高い、魅力あふれる生地や、製品を安定して生産できるようにしていくことが課題です。

今後も「高島ちぢみ」のブランドイメージの浸透に向けて、市場動向を意識したものづくりへと、力強く、不退転の覚悟で取り組んでいきたいと考えています。



企業ポリシー

- 「正直・実直」を旨として仕事に臨む
- 自社にしかできない、生地づくりの追求
- 「高島ちぢみ」ブランドの浸透
- 自社生地を使った新たな製品開発